

第三師団創立五十一周年・千僧駐屯地創設六十一周年 記念行事感想文

「いつも自衛隊の記念行事に参加され、その感想文を書かれている大阪の女性ジャーナリスト・森田芳子さんが、今年5月に見学された第三師団（近畿地区担当）の感想分を送ってくれました。

陸上自衛隊の記念式典の様子がリアルに分かりますので、許可を得て転載させていただきます。松島悠佐」

第三師団創立五十一周年・千僧駐屯地創設六十一周年 記念行事感想文

大阪防衛協会女性部 森田芳子（平成24年5月20日）

記念行事の駐屯地は、ハレの日の華やかさと浮き立つ様な空気で満ちている。例年通りお目当てのポイントに急ぐ来場者も見られたが、全体的に落ち着いた雪囲気だ。

今年の第三師団・千僧駐屯地創設記念行事は、2日開催である。19日は、観開式のみ予行で、他のアトラクションは本番同様に展示されたようだ。

招待客スタンドが撮影マニアに大解放！ そらあ、盛りあがったやろうなあ〜。防衛関連誌の投稿写真に期待しよう。とはいえ、大変な人出だ。

特に子供広場は、開場早々から大盛況。エア遊具の巨大戦車滑り台は、昨年を引き続いて大人気だ。そして今年は新戦力も参戦！

パッと見は、透明ビニール製のかい筒。二重チューブの芯に子供が入って立てるくらいだから、直径は二mほど。担当の自衛官が二人掛かりでチューブの両端に付けられた紐を引っ張って歩くと、マットの上を筒がコロコロコロ・・・20mほどの距離を、行って帰ってハイ終了だが、これがかなりの物で中に入った子供がエライ事になっている。

何に似ているかと言うと、ドラム式洗濯機の中の洗濯物が一番近い。一度転ぶと起き上がれず、筒の中で転げ回っている。結構な惨状だが、子供本人は大変楽しそうだ。転げ回りながら、大笑いしている。紐を引っ張る係りの隊員も心得たもので、こわごわ入る小さな子供には注意深くゆっくりと、期待に目をキラキラさせているワンバク君には少し強めにと、操作を調整しておられる。こんなに楽しい思いをした子供達が一度で満足するはずが無く、筒を出たその足で順番待ちの列に並びに行く。ここでも無限ループがはじまっている。ふと気づくと、子供達はほとんど単独で遊んでいる。お母さんが付き添っている子供は、ごく少数。こんなに信頼されている遊び場、見たことも聞いたことも無い。記念行事は、子供のバラダイスでもある、皆、遊びに夢中で、いくら私が「イイなあ〜」と指をくわえて羨ましがっても全然眼中にない。

気分を変えて野外交店に向かおう。自衛隊グッズを販売する店も自衛官直営だ。

うわ、リアルっぽい！と手に取ったオリーブドラブ色のプラスチック製のコップ二百円。「買う〜」と百円玉を二枚渡したら、隊員さんが「引いてって♪」とクジ箱を差し出した。

価格に関係なく、1回引かせてくれるらしい。引いたカードは、ベル型ヘリの前でポーズをキメた4人の隊員の写真。フル装備でガスマスクまで付けている。キャノンの印画紙で発色も良くラミネート加工もカンペキ！オマケには、もったいない丁寧さだ。

「当たりで〜す！」と隊員さんは言ってくれるが、全部アタリやないのん？

深く追求しないのが、大人のたしなみである。

隣から何やらイイニオイがする・・・お好み焼きだあ、と見ると「一整焼き」のノボリがはためいている。毎年、納涼行事で大人気、長蛇の列を見るだけで諦めていた

マボロシの一整焼き！

ひいやああ～！秘かにパニクリつつ買い求める。小さめで具だくさんのお好み焼き、目玉焼きっぽく玉子が一個使われている所がゼイタクだ。広場には、いくつものテーブルと椅子が置かれて、落ち着いて食べたり休憩できる様になっている。お隣のテーブルでは、お母さんがお嬢ちゃんにラーメンを食べさせている。

ラーメン？売店を見たら「鬼軍曹ラーメン」の文字。恐ろしげな名前だが、お嬢ちゃんはとても美味しそうに食べている。女の子には優しいらしい。

今回のネーミング大賞は「鬼軍曹ラーメン」に決定！

その隣には何だか見慣れない店が並んでいるなあ、と思ったら何と「自治体ショツブ」だった。大阪、兵庫、京都などの特産品や観光案内のパンフレットが店頭には並んでいる。

兵庫のコーナには、地元キャラ「はばたん」まで来ている。

ふああ、地方自治体が自衛隊になつく度合いもココまで来たかあ～。一番端の滋賀ショップは少々暇そうに見えるが、軒先に貼り紙が揺れている。「ひこにゃんは十二時、十四特に登場します」

ほおお～ゆるキャラブームの火付け役として名高い「ひこにゃん」、自衛隊記念行事に降臨☆。本日は神戸まつりも開催されているが、自衛隊を選ぶとはさすが日本一のゆるキャラ、アツパレである。トップ・オブ・ゆるキャラの練りまくったアクションを拝見したい事は山々なれど、その出演時刻は訓練展示と丸かぶりである。

う～、今回は榴弾砲や戦車の空砲音をパスするお子様方に、見学の栄をお譲りするしか無い様だ。ああ、残念！

ひこにゃんは、カブト装着の武装キャラなので、次回はぜひとも訓練展示に参加して欲しい！装甲車から手を振るひこにゃん、などいかがであろうか・・・熱烈大希望♪である。

腹ごしらえも出来たところで、いよいよ観閲式が催されるグラウンドに向かおう。

陸橋を渡って移動する。片側通行になっているが皆、素直に守っている。だってココ一般人は歩けないんだよ～。今なんか、自衛官のすぐ後ろを歩いているんだよ～（至近距離で装備や戦闘服が観察し放題）。自然とニコニコしてしまうが、オカシナヒトではなくマニア脳が大喜びしているだけなので、その所ヨロシクですう！

さて、席だ。受付で貰った用紙には17枠がラインで囲まれている。ココなら、ドコに座ってもイイってコト？まだほとんど無人である。ねえねえ、一番前に座ってもイイの？

警備の自衛官に尋ねたら「大丈夫ですよ～」と教えてくれた。分担が違うのに、親切だ。

中央スタンドの左前に張り出したグラウンド席の最前列。大相撲でいう砂かぶり席ゲットだ。大迫力が期待できる。お隣の一番乗りのオジ様は「いつもこの席なの～♪ココで見るのが楽しみなの～♪」とおっしゃる。マニアも、上には上がおられる。

キャー、観閲部隊が入場して来た！いやあ～、何で歩き方だけで強いって分かるんやろ～？☆でもホンマに精強な人達なんやなあ～、第三師団は！

きゃいきゃい言ってるが、全て「ココロの声」である。観閲部隊の方からマニアゴコロが見えたら、エライコトになっているはずだ（ほぼ「エライコッチャ♪」の阿波踊り状態である）。

観閲式開始時には、満員の観客がグラウンドをぐるっと取り囲んでいた。

国旗入場での起立には、全観客が脱帽して従う。ホントに来場者のお行儀が良くなった。

国旗に、と言うより自衛隊への敬意を表している様に思う。尊敬している人達が大切にしているものを自分も大切に。始めはソレで良いと思うのだ。

議員先生方の出席も大変多い。来賓祝辞、どんだけかかるんや〜！と思ったが、さすがに「短めをお願いします」とアナウンスが入った。観客一同、拍手で賛同を表す・・・が、しゃべる人は長々としゃべる。ソシテ、皆ノ恨ミヲカウ・・・覚えとくで〜。

それでも、グランド席は退屈しない。観閲部隊とお見合い状態だ。「休め！」「気をつけ！」の度にザッと振動が伝わって来る。いいなあ、この席。観閲行進もスタンド席とは臨場感が言う。ホントに目の前を行進が通る。

この方達が地元部隊なのね〜♪と見送ると、音楽がテンポアップした。

車両行進の観閲ギャロップだ。え？もう？と入場門を振り返ると、徒歩部隊が仁王立ちしている。大変！音楽隊、曲が違うよ〜！

次の瞬間、隊列を組んで部隊がグランドに駆け込んできた。

「大津駐屯他から、新隊員部隊が観閲行進に参加します」思いがけない参加に、観客は大喜びだ。はじめから駆け足の観閲行進は、初めて見た。ひや〜、初々しいこと！

「指揮官は、マツシマユウスケ3等陸尉です！」・・・驚愕！

阪神淡路大震災当特の中部方面総監と同姓同名さんだ〜！

先頭の若き指揮官は、走りながら観閲官に颯爽と敬礼をキメた。従う新隊員達も一丸となって駆けて行く。カッコイイ〜！観客大絶賛！

先の徒歩部隊もグランドの向こう正面を駆けている。掛け声が交わされ、先輩部隊の後を新隊員部隊が追いかけて行く。新隊員の若々しく力強い行進に、観客から大きな拍手と無数のフラッシュがきらめいた。いや〜、マツシマ三尉、カッコ良かったな〜。

現在は錚々たる方面総監や師団長、駐屯地司令の方々、松島元中部方面総監をはじめ、歴代の方達も初めは「若き指揮官」だったはず・・・各地の音楽まつりでは、歌や踊りの先頭にも立っておられたと伺った。

うわあ〜、皆様「歌って踊れる指揮官」だったのかあ〜！見たかったあ〜！

今から錚々たる方達に「見せてよ」とは言わないけど「若き指揮官の颯爽とした姿」は「胸キュンド真ん中！」女性ファン急増はカタイと思う。今後の披露に期待します♪

その後の車両行進は、もちろん大迫力で目の前を通過する装備車両の数々に目を見張るばかり。戦車の重量感とスピードは、何度見てもビックリする。

行事はまだまだ続く。大鼓隊は勇壮な演奏だけではなく、演出にも見せる工夫をこらしてくれた。オートバイドリルは、日頃鍛えた技術の展示とはいえ「リアル仮面ライダー」のダイナミックでスリル満点の操縦に観客全員が釘付けになった。

本当に盛り沢山でサービス精神イッパイの行事だ。

それは訓練展示にも現れていた。おなじみの野戦形式なのに、グランドに展開する隊員が随分多い。隊員の動きを見せるのが今回の訓練展示かと見とれていたら、足元で何かがうごめく気配・・・ふと見れば、何じゃ？これは！

モップの様な長い毛の固まりがウズウズと動いている。大型のお掃除ロボ？よくよく見れば手足がある、銃を持っている・・・自衛官だあ〜！ しかも二人いる。

ギリスーツという偽装服が有ると知ってはいたが、モップ仕様は初めて見た。

よくそのマルチズ犬みたいな長い毛を巻き込まずに動けるな。あ、腹這い側は体も手足もツルツルの布を装着している。なるほど～、伏せ姿勢専用なんだ。

スナイパーの二人は、射撃姿勢の展示を終えた後も立ち上がり、匍匐姿勢のままグラウンドから退場して行った・・・完璧だ。

陸上自衛隊の主要装備は「人」だ。訓練展示で敵を制圧する時も、大詰めで隊員が銃を構えて敵陣に乗り込んで行った。

日本を守るゴールキーパーであり、決着をつけるストライカーは陸上自衛官なのだ。数々の災害での活躍で、自衛隊の支持率は90%を超えたが、自衛隊の本領は「国を守ること」だ。自衛官はその為に毎日、厳しい訓練を重ねている。その成果を私達にちょこっと披露してくれる場が、観閲式とその後のアトラクションだ。それはマニアを喜ばせるだけではなく、地域の住民の大きな安心になる。

平成21年の春、新型インフルエンザ騒ぎで日本中が不安に包まれていた。神戸まわりも早々に中止になり、町はどこもピリピリした雰囲気だった。

そんな時、第三師団・千憎駐屯地は観閲式を行い、駐屯地に来場者を迎え入れてくれた。

小雨まじりの天気だったが、行事が催されると聞いた観客がどんどん増え、観閲式が開始される時間には満員になっていた。幼稚園児からその父兄を始め、グラウンドに詰めかけた自衛隊を応援する人全てが感激でウルウルしながら式典を見守った。

記念行事の数日前に、兵庫と大阪で感染者が発見されるという大混乱の毎日だったが、何とか冷静に過ごせたのは、観閲式で普段と変わらない自衛隊の姿、自衛官の方達の様子を拝見出来たからだと思っている。本当に、ありがとうございました。

自衛隊が、すぐそばにいてくれることが地域の住民の大きな支えであり、よりどころなのだ。そして、私達国民が自衛隊を信頼し、支持を表すことが外国へのメッセージとなり、抑止力の一つになると思う。

人に云うと言いて「伝える」。人に言くと書いて「信じる」。

自衛隊への要望だけではなく、私達の思いと信頼を自衛隊に伝えることで、信頼の絆がより強く結ばれるのだと思う。(完)